

# 7. 生活習慣病に伴う骨粗鬆症に対する薬物療法

Medical treatment for osteoporosis associated with lifestyle-related diseases

山内 美香

Mika Yamauchi(准教授) / 島根大学医学部内科学講座内科学第一

## key words

骨粗鬆症  
2型糖尿病  
慢性腎臓病  
ビスホスホネート

生活習慣病に伴う骨粗鬆症の薬物治療を含めた管理については、確立されていないが、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版では、HbA1c値などについて明確化した2型DMにおける薬物治療開始基準の試案が示されている。2型DMおよびCKDステージG3においても、ビスホスホネート、SERM、テリパラチドなどの有効性、安全性には概ね問題はないとされる。今後、各疾患の管理指針や薬剤の長期にわたる有効性、安全性についての検討が待たれる。

## はじめに

生活習慣病の代表的疾患である2型糖尿病 (diabetes mellitus : DM) や慢性腎臓病 (chronic kidney disease : CKD) が骨代謝に影響を及ぼし、骨折リスクが高まることが明らかとなり、骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインにおいて、生活習慣病関連骨粗鬆症は続発性骨粗鬆症の代表例と位置付けられている<sup>1)</sup>。現在、生活習慣病関連骨粗鬆症として確立されている原因疾患は、コントロール不良のDMとステージG3以上のCKDである。生活習慣病と骨粗鬆症の関係についてのさらなる報告が集積しつつあり、なかでも慢性閉塞性肺疾患 (chronic obstructive pulmonary disease : COPD) で骨折リ

スクが高まるとのエビデンスが確立しつつある。

一方で、生活習慣病に伴う骨粗鬆症の薬物治療を含めた管理については、十分なエビデンスが集積したとは言いがたく、確立されていない。しかし、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版では、HbA1c値について明確化した2型DMにおける薬物治療開始基準の試案が示されている<sup>1)</sup>。

本稿では生活習慣病に伴う骨粗鬆症に対する薬物療法について概説する。

## 生活習慣病に伴う骨粗鬆症の管理

生活習慣病関連骨粗鬆症は続発性骨粗鬆症であることから、生活習慣病自体の是正による骨粗鬆症の改善効果が

期待される。しかし、これのみで骨折リスクを早期に低減できるとは考えにくく、骨粗鬆症に対する薬物治療が必要である。生活習慣病に伴う骨粗鬆症の管理はいまだ確立しておらず、現時点では原発性骨粗鬆症の薬物治療開始基準に準じる<sup>1)</sup>。骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインでは骨折リスク評価ツール (FRAX<sup>®</sup>) が採用されているが<sup>1)</sup>、2型DMにおける骨脆弱性はFRAX<sup>®</sup>では過小評価となる<sup>2)</sup>。このことから、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版<sup>1)</sup>では、生活習慣病骨折リスクに関する診療ガイド<sup>3)</sup>とほぼ同様ながら、HbA1cについて明確化した2型DMにおける薬物治療開始基準の試案が示されている。具体的には、脆弱性骨折がない場合、罹病歴が長く、HbA1cが